

# 平成28年度 本庄市交通政策協議会 (地域内フィーダー系統確保維持補助事業)



## 地域の公共交通の現況

現在、本市の主要拠点間の移動手段は、本庄地域と児玉地域(平成18年に本庄市と児玉町との合併により現本庄市となる)の間を結ぶ路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口の減少、マイカーの利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持継続が困難な状況が生じている。また、従来の公共交通だけではカバーしきれない、いわゆる交通不便地域が点在している。

## 一部山村指定

## 事業の目的・必要性

交通不便地域の解消、また、高齢者等の交通弱者の移動手段確保を目的とし、市内の公共交通ネットワークを充実させることが喫緊の課題である。市内公共交通ネットワークを充実させるためには、基軸となる路線バスに接続するフィーダー系統の運行が必要である。フィーダー系統の運行により、公共交通を乗り継ぐことで市内を快適に移動することが可能になる。

面積	89.69km <sup>2</sup>
人口 (H29.1.1時点)	78,989人
15歳未満	9,527人
	20,952人
高齢化率	26.5%
世帯数	33,541世帯

## 事業の概要

市内の本庄地域と児玉地域を結ぶ路線バスを「地域間幹線系統」として運行し、両地域において地域間幹線系統に接続させる形で区域運行のデマンド型交通の運行をしている。また、交通結節点機能の充実を目的とし、本庄駅(JR高崎線)と本庄早稲田駅(上越新幹線)の両駅間を結ぶシャトル便(乗合バス型)を併せて運行している。

### 【デマンド交通:「はにぼん号」「もといずみ号」】

事業者名:朝日自動車株式会社  
 運行区域:①本庄北地域、②本庄南地域、③児玉市街地、④児玉山間地域  
 運行日:月曜～土曜(日曜、祝日、年末年始運休)  
 運行時間帯:8時～17時(④児玉山間地域のみ、8時前、18時以降に通学用の運行)  
 運行車両:ワゴン車(①④地域)、セダン車(②③地域)  
 運賃:300円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

### 【シャトル便:「はにぼんシャトル」】

事業者名:本庄観光株式会社  
 運行系統:本庄駅～本庄早稲田駅 3.0km  
 運行日:365日  
 運行時間帯:9時～19時  
 運行本数:13.5往復/日  
 運行車両:ワゴン車  
 運賃:200円(回数乗車券購入及び乗り継ぎによる割引制度あり)

## 協議会開催状況

### ○協議会の開催状況

- ・第13回(平成27年1月16日)  
H26年度計画の事業評価について協議
- ・平成27年度第1回(平成27年5月26日)  
H28年度計画、改善点等の協議
- ・平成27年度第2回(平成28年1月8日)  
H27年度計画の事業評価について協議
- ・平成28年度第1回(平成28年6月14日)  
H29年度計画、課題・改善点等の協議

## 前回の事業評価結果の反映状況

### 【デマンド交通】

- 予約ルールの変更、停留所の見直しなど、市民・利用者の声を反映する形で改善を進めた。
- 自治会など地域コミュニティの協力を得て、説明会を開催した。
- 前回の事業評価結果を受け、平成29年度計画の目標を見直した。

### 【シャトル便】

- シャトル便を運行している本庄駅ー本庄早稲田駅間に競合(\*)する路線バス(民間2路線)がある現状を踏まえ、今後のシャトル便のあり方について議論を開始した。  
(\*)H25.10運行開始時にはシャトル便のみだった路線に、現在は2事業者が乗り入れている。
- 前回の事業評価結果を受け、平成29年度計画の目標を見直した。

## 定量的な目標・効果

【目標】平成28年度(H27.10.1~H28.9.30)利用者数

- ・デマンド交通: 26,500人
- ・シャトル便: 17,300人
- ・地域間幹線系統(朝日自動車(株)路線バス): 前年度対比で増加

### 【効果】

- ・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。
- ・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

## 目標効果の達成状況

### 【デマンド交通】

H28年度利用者数: 13,522人

- ・目標に対する実利用者数の割合は52%(前年度: 57%)であった。利用者数は前年度比10%減となったが、交通不便地域(児玉山間地域)では前年度比10%増となる等、新たな需要の高まりも確認できた。  
交通弱者の移動手段としての定着は確実に進んでいる。

### 【シャトル便】

H28年度利用者数: 10,953人

- ・目標に対する実利用者数の割合は63%(前年度: 60%)であったが、利用者数は前年度比4.5%増であり、利用者数の増加傾向が続いている。  
交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ交通手段として定着が進んでおり、市内移動を快適に行えるネットワークの形成に寄与している。

## アピールポイント

路線バス(地域間幹線系統)、デマンド交通及びシャトル便の相互乗り継ぎの促進を図るため、豊富な割引メニューを用意している。

## 今後の改善点

### 【デマンド交通】

運行開始から3年が経過し、特定の利用者による運行の硬直化が課題の一つである。これまで小さな改善を重ねてきたが、利用者離れを起こさないよう満足度の向上に取り組む必要がある。また、運行方法や予約システムの抜本的な見直しを検討していく必要がある。

### 【シャトル便】

「前回の事業評価結果の反映状況」欄に記載のとおり、シャトル便を取り巻く環境が運行開始時から変化している。実情に合った地域交通網を形成していくという観点から、シャトル便を含めた各交通手段の分担する役割を整理していく必要がある。